

第 38 回生命の起原および進化学会
学術講演会に参加して
大阪市立大学大学院理学研究科
後期博士課程 2 年
淵田茂司

第 38 回生命の起原および進化学会学術講演会は 2013 年 3 月 14 日～16 日の 3 日間、福岡県の九州大学にて行われました。私は卒業研究に取り組み始めたころから、生命の起原を題材に研究を行ってきましたが、本学会の講演会は初めての参加となりました。去年から粘土鉱物とアミノ酸重合に関する研究を始め、これらの成果をまとめ、発表する良い機会だと考え、参加させていただきました。

粘土鉱物に関する研究は、Bernal (1951)の研究以来様々な研究者が行ってきましたが、未だアミノ酸の重合反応メカニズムを詳細に解明した研究例は少ないように思います。私の研究では、粘土鉱物の一種であるモンモリロナイトにグリシンを吸着させ、それらの熱挙動と水および pH の関係について調べました。講演を聴いていただいた皆様からは様々な指摘をいただき、今後のさらなる実験に役立てたいと感じております。口頭発表とは別に、ポスターセッションを設けていただき、より濃い議論ができたように感じます。また、自身の研究について理解してもらうだけでなく、様々な研究者が現在取り組んでおられる内容について知ることができ、大変有意義な時間を過ごせました。とくに、たんぼぼ計画など宇宙空間での実験や観測などについては、非常に期待を寄せており、さらなる報告が楽しみなところです。生命の起原を探ることは、非常に長い道のりのように思いましたが、様々な見地から研究が進んでおり、生命前駆体を創り出せる日がそう遠くないのではないかと感じました。日頃、熱心に指導して下さる益田晴恵教授、研究に協力していただいた後輩の水野友貴さん、旅費を援助して下さった学会関係者、一緒に議論していただいた研究者の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

生命の起原および進化学会
第 38 回学術講演会に参加して
大阪大学大学院理学研究科
宇宙地球科学専攻
博士後期課程二年 坂田霞

2013 年 3 月 14 日から 16 日に、九州大学箱崎キャンパスにて、生命の起原および進化学会が開催されました。私にとって、生命の起原および進化学会学術講演会は、四回生の時以来の二度目の参加でした。私は、「海底熱水の多様性と SIPF 反応速度」というタイトルで、海底熱水系での生命前駆物質の化学進化を想定し、熱水環境下でのアミノ酸重合反応速度に及ぼす金属イオンの効果について発表をしました。

今回は、初めての試みとしてポスター発表も口答発表に合わせて行われました。これは私にとって、参加する前から大変楽しみな試みでした。思い起こすと四年生の頃に参加した時は、口答発表のみで、質疑の時間に「質問したいな...よし！質問しよう！いや、でも四回生はあまりにも何も分かってないし的外れなこと聞いたら恥ずかしいし、でも...」と一人勝手にあれこれと考え、挙手することもできず、質疑の三分間はあっという間に過ぎ、もどかしい思いをしました。しかし、今回は、口答発表の内容についてのポスター発表も同日に行われ、じっくりと濃い議論ができ、多くのアドバイスを頂き、満足感でいっぱいの学会となりました。ポスター発表中の議論は、自分の研究内容を見つめ直すきっかけにもなり、学ぶ事も多く、貴重な時間となりました。ポスター発表中には、飲み物と軽食も用意して頂き、先生方とも近い距離で深くお話しできたので、大変有意義な時間となりました。少しでも距離を近く、深く議論をするための工夫が、学生には特に嬉しい工夫だったと思います。生命の起原および進化学会学術講演会の一番の魅力は、先生方と学生の距離が近いことだと思います。今回は、この魅力が最大限に引き出された、とても素敵な学会だったと感じます。初めての試みでご苦労も多かったと思いますが、このような素晴らしい学会を準備して下さった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。楽しい時間をありがとうございました。